



XMLマスターの価値

2003年5月30日

XML技術者育成推進委員会

副会長 平野 洋一郎

企業インフラとXML

企業インフラに求められる「3V」

- 短い商品サイクル
- 頻繁な事業再生
- 桁違いのIT技術の発展



Velocity

(速力)



Versatility

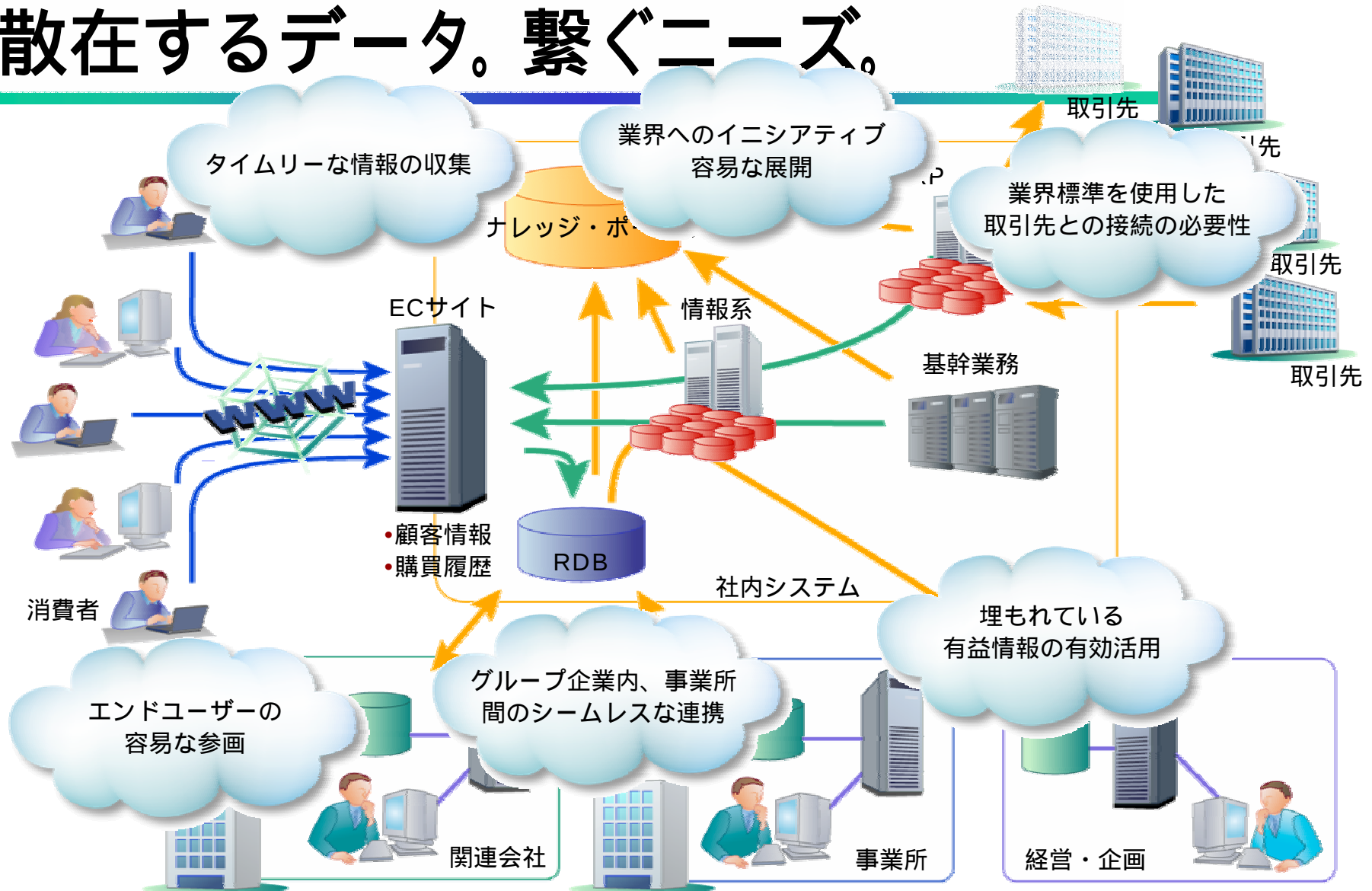
(多様性)



Visualization

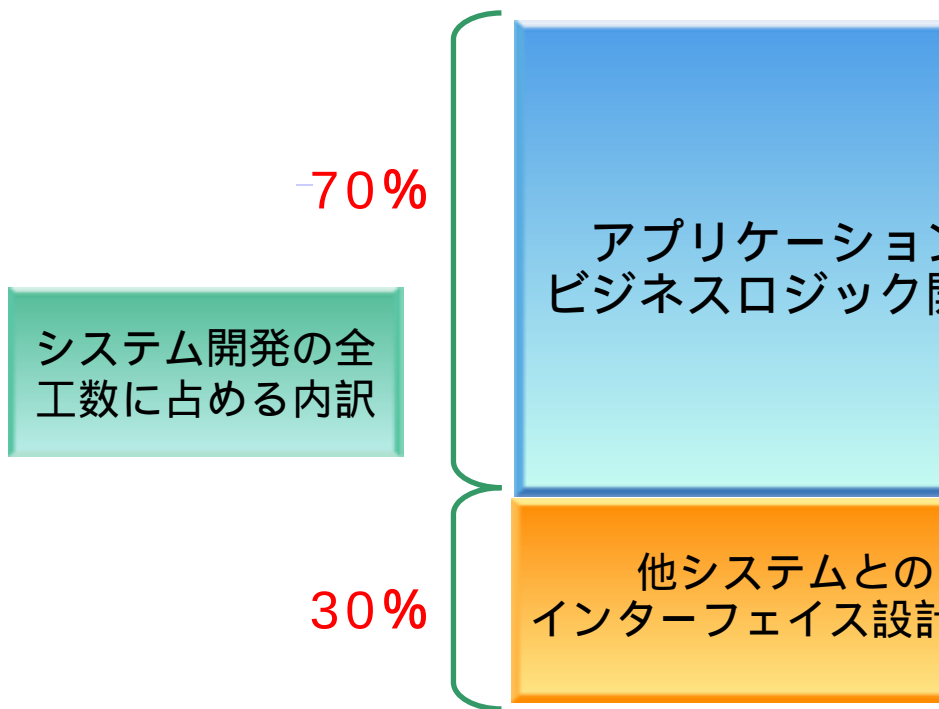
(可視化)

散在するデータ。繋ぐニーズ。



システムインターフェ이스の負荷

■ インターフェイス設計・開発・保守のために膨大な労力を費やしている

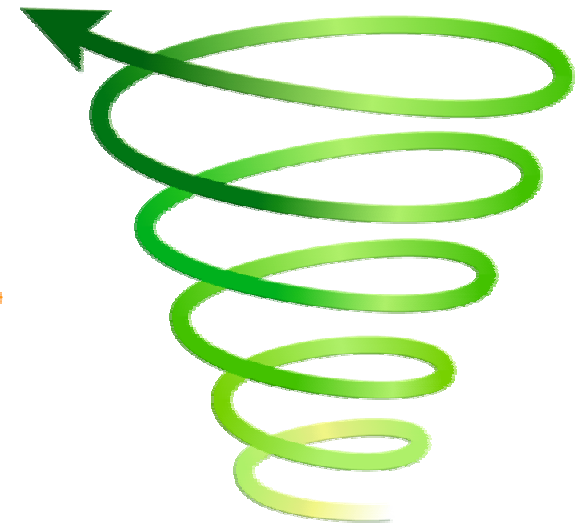


開発手法の変化とXML

- 初期段階で全ての要件を盛り込むことはもはや不可能
- システムに「依存しない」データフォーマットとプロトコル
- 結果として期間とコストの削減も実現



■ ウォーターフォール型



■ スパイラル型

様々な業界での取り組み

さまざまな業界での取り組み (1)

業界・用途	仕様	適用地域	概要	標準化組織
汎用	ebXML (e-business XML)	国際	企業間商取引をXMLベースで行うための基本仕様。業界や業種に依存しない基礎仕様の部分である。文書フォーマット、レジストリ/レボトリ、文書のフロー、通信プロトコルなどを定義する。国内でも採用の動きが活発化している。	UN/CEFACT & OASIS
汎用	UBL (Universal Business Language)	国際	xCBLをベースとした、汎用の電子商取引仕様。XMLの父と言われるJon Bosackが推進している。	OASIS
汎用	xCBL (Common Business Library)	国際	汎用の電子商取引のための仕様。米CommerceOneが開発したが、現在はオープンな仕様となり、UBLに引き継がれている。	xcbl.org
汎用	CII/XML	国内	国内EDIのデファクト・スタンダードであったEIAJ/CII シンタックスルールに準拠して作成された業界標準メッセージとXMLを組み合わせたもの	ECOM (日)
電子電気	RosettaNet	国際	電子・電気機器業界のサプライチェーンを実現するグローバルな標準仕様。メッセージ交換のための基礎規約RNIFと、メッセージ本体仕様のPIPからなる。国際的には、インテル、ノキアなど、国内では、ソニー、京セラなどがリードしている。	RosettaNet
半導体	TDML (Timing Diagram Markup)	国際	IC/LSIなどのタイミング・ダイアグラムの国際標準仕様。	Si2-ECIX
企業内消費財	cXML (Commerce XML)	国際	企業内消費財(文具、オフィス家具、チケット、人材派遣など)の電子購買のための汎用仕様。Aribaが開発し採用している。	Ariba, cXML.org
化学	CIDX (eXchange)	国際	Chem eStandardsと呼ばれる。化学業界のサプライチェーンのための標準仕様。フレームワークにRosettaNetのRNIFを使用	CIDX.org
建設	aecXML (Architecture, Engineering and Construction)	米国	建築・土木・建設業界プロジェクトのコミュニケーションを行なうための仕様。(米国)	IAI-NA.org
建設	bcXML (Building Construction XML)	欧州	建築・土木・建設業界プロジェクトのコミュニケーションを行なうための仕様。(欧州)	econstruct.org
金融	STPML (Straight Through Process Markup Language)	国際	金融・証券業界のSTP (Straight Through Process)を実現するためのXML仕様で、これまでの各種金融関係標準(FIX, SWIFT, ISITC, DTC ID)のスーパーセットとなるべく策定されている。	DNAfs steering committee
金融	FpML (Financial Products Markup Language)	国際	金融デリバティブ商品の電子商取引のための仕様。	FpML.org
金融	FDXS (Standard)	国内	銀行決済を行うための取引仕様。	JNB (日)
金融	FIXML (Financial Information eXchange)	国際	証券業界のオンライントレーディングのための仕様。	FIXprotocol.org
金融	FSML (Financial Services Markup Language)	国際	電子小切手(eChecks)および関連文書を扱うための仕様。	eCheck.org
金融	IFX (Interactive Financial eXchange)	国際	オンライン融資や、キャッシングのための仕様。	IFX Forum
金融	OFX (Open Financial Exchange)	国際	金融機関、企業、消費者間のインターネットバンキングを行なうための仕様。	Open Financial Exchange
金融	swiftML (Society for Worldwide Interbank Financial Telecommunications)	国際	銀行・ブローカ・市場組織間における支払い処理、財務・証券取引の処理コスト低減、自動化、そしてリスク低減を実現するためのメッセージング標準仕様。	SWIFT



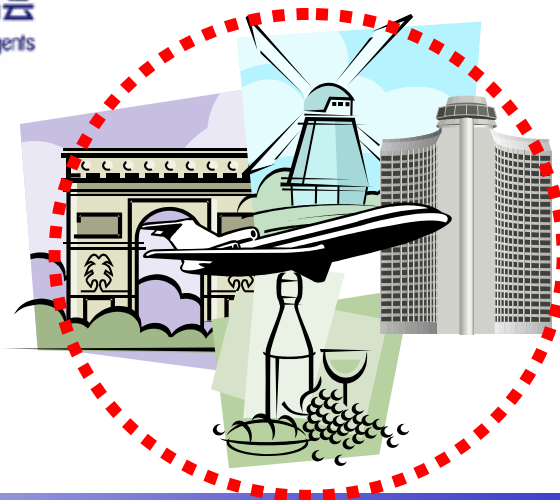
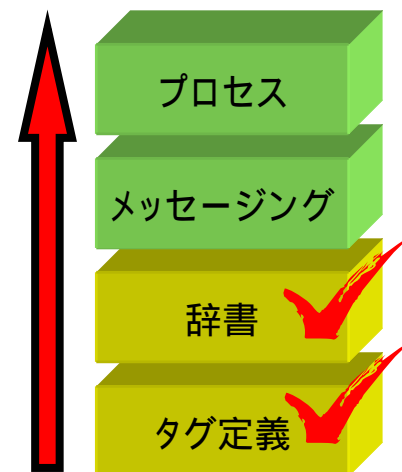
さまざまな業界での取り組み (2)

業界・用途	仕様	適用地域	概要	標準化組織
財務	XBRL (eXtensible Business Reporting Language)	国際	企業財務情報を公開・交換するための標準仕様。国内では、国税庁、東証が採用を表明し、普及が急速に進みつつある。	xbri.org, xbrl-jp.org
報道	NewsML	国際	ニュース配信のためのXML仕様。ライターが中心となって普及活動をはじめ、国内でも共同通信などをはじめ採用が相次いでいる。	国際新聞通信委員会 (IPTC)、日本新聞協会
報道	SportsML	国際	競技データ (スコア、スケジュール、選手情報など) を交換するための仕様。	国際新聞通信委員会 (IPTC)
放送	BML (Broadcast Markup Language)	日本	BSデジタル放送のための仕様。XMLでメタ情報を記述する。他のXML情報との融合を行うためのB-XML仕様も規定されている。	電波産業会ARIB (日)
医療	MML (Medical Markup Language)	日本	医療機関間での迅速かつ確かな電子カルテの交換を目的とする仕様。標準化に伴ってシステムコストの削減も期待されている。	MedXMLコンソーシアム (日)
医療	HL7 Health Level Seven	米国	健康管理のコンピュータシステムの間で、臨床・会計・管理情報を電子的に交換するための標準。及び標準を開発する会員。	Health Level Seven
出版	JepaX (Japan Electronic Publishing Association XML)	日本	出版業界内部において電子出版コンテンツの蓄積や交換を行うための「中間フォーマット」として利用されることとした仕様。「配布フォーマット」として利用されることは意図されていない。	日本電子出版協会 (日)
出版	Open eBook Open Electronic Book	国際	電子書籍の内容、構造、表現などをXMLベースで定めた標準仕様。	OeBF (Open eBook Forum)
旅行	OTA (Open Travel Alliance)	米国	宿泊施設、交通機関と旅行代理店(Agency)の間で手配に必要な情報交換を行うための仕様。	Open Travel Alliance
旅行	TravelXML	日本	国内パッケージ旅行、海外パッケージ旅行などOTAには存在しない形態の取引を補完するために開発。	JATA (日)、XMLコンソーシアム
人情報	ContactXML	日本	BtoBやBtoCで必要な電話番号や住所など、連絡先記述に必要な情報を標準的に記述するためのXML仕様。	XMLコンソーシアム ContactXML部会
人事	HR-XML (Human Resource XML)	米国	スタッフィングやリクルートに必要な人事情報 (給与、スキル、手当など) 情報を標準化するもの。	OASIS
地理	G-XML	日本	地理情報を記載するためのXML仕様。JISに制定 (追補版あり) され、国内で普及が始まっている。また国際仕様(ISO)のGMLとの整合性を取ることができるよう設計されている。2002年8月に	データベース振興センター (日)
繊維	QR-XML (Quick Response XML)	日本	繊維・アパレル業界におけるオープンでグローバルなECとEDIの情報流通プラットフォームを構築するための仕様。	QR-XML普及協議会 (日)
自動車	SAE J2008 XML (Society of Automotive Engineers)	米国	自動車の排気に関連した自動車サービス情報へ容易にアクセスできる環境を提供するための仕様。	Society of Automotive Engineers
流通	CPFR (Collaborative Planning, Forecasting and Replenishment)	国際	流通小売業界において在庫を削減し顧客サービスを向上させるために開発されたサプライチェーン効率化のための仕様。	Voluntary Interindustry Commerce Standards Association (VICS)
不動産	RELML (Real Estate Listing Markup Language)	米国	不動産物件一覧管理用のXML仕様。	OpenMLS (Open Multiple Listing Service)
不動産	RETS (Real Estate Transaction Standard)	米国	不動産取引を行うための情報を標準化した規格。	RETS Working Group
法律	LegalXML	米国	法的な情報を交換するためのXML仕様。訴状、訴訟資料、法律の引用、裁判記録などを記述、交換できるようにする。	OASIS
行政	GovXML (Government Markup Language)	欧州	各種行政サービスに必要なデータ交換仕様を定めるもの。インターネットを活用した「ワンストップ」の行政サービスを目指す。	eGOV-Project.org



Travel XML

- 内容：旅行手配情報
 - 国内パッケージ旅行
 - 海外パッケージ旅行
 - 海外宿泊予約
- 地域：日本発
- 活動母体：JATA
 - (社) 日本旅行業協会
 - 協力：XMLコンソーシアム
- 活動期間：2003年～進行中



XBRL (eXtensible Business Reporting Language)

■ 経緯・目的

- アメリカの公認会計士チャールズ・ホフマンの発案
- 財務レポートのリアルタイムな流通と再利用
- 財務報告の作成・監査・流通・利用を容易にする

■ 財務データをXML化

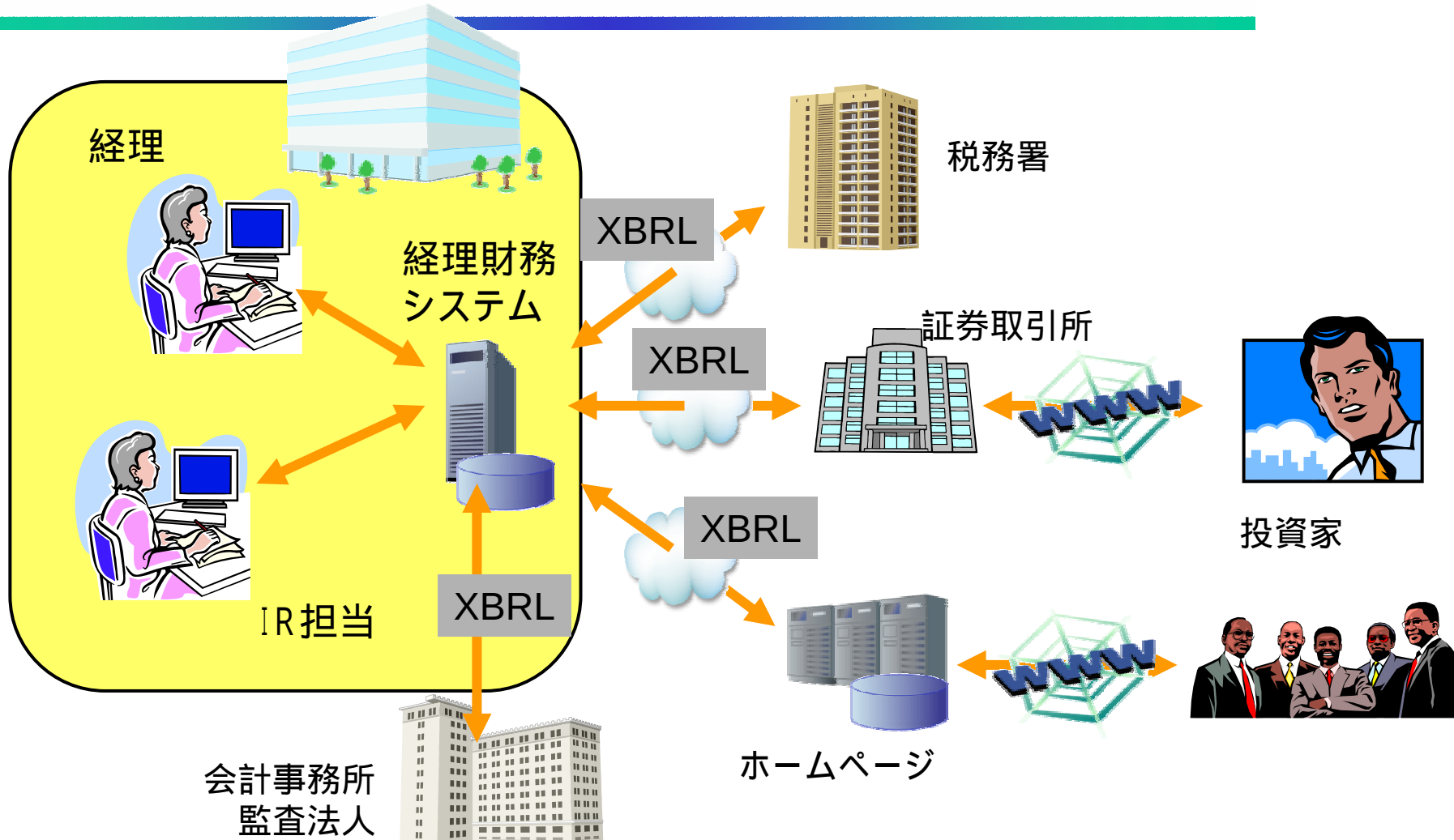
- 有価証券報告書
- 総勘定元帳



■ 国税庁、東京証券取引所が採用意向表明

- 第6回 XBRL国際会議(東京)にて
- 海外では、米証券取引委員会(SEC)、米国の銀行の監督機関である連邦預金保険公社(FDIC)、オーストラリア金融監督局(APRA)、欧州を中心とする国際信用保険協会(ICIA)などが採用

XBRLの利用シーン



NewsML



目的

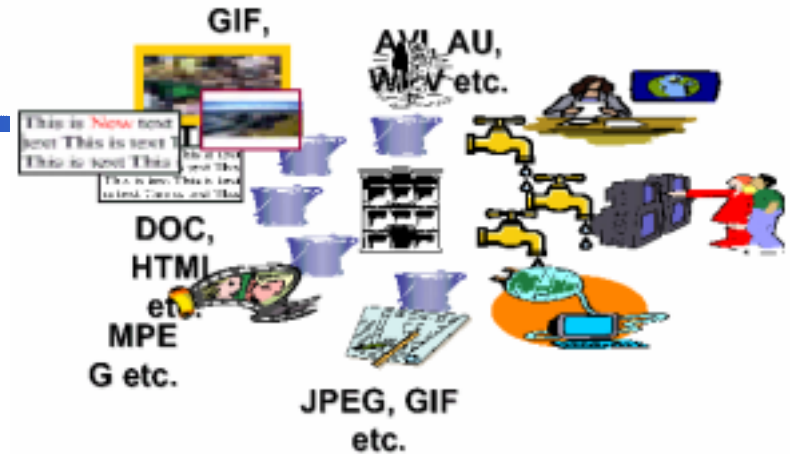
- あらゆるフォーマット
- あらゆる素材
- 最新の版 ……を標準の技術で！

■ 主な採用例:

- ロイター、Wall Street Journal、共同通信、毎日新聞 他

■ 国内でも既に実用段階

- 新幹線電光ニュース
 - 共同、日経、朝日、毎日、読売、産経、中日
- Web
 - 毎日新聞がWebサイトでNewsML採用
- ニュース配信
 - 共同通信、読売新聞NewsML配信一本化へ



出所) 日本新聞協会

MedXML (MML)

■ 内容: 電子カルテ

- 個人の診療・検査情報

■ 活動母体

- 日本医療情報学会 NPO設立

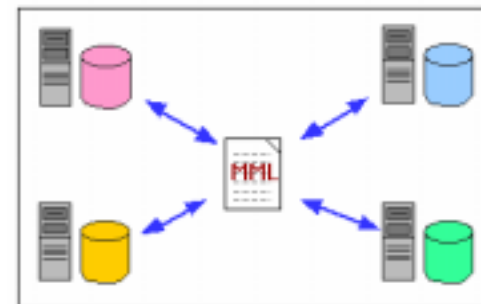
■ 活動期間: 2000年～進行中

- 最初は独自フォーマットだったものをXML化、現在MML 3.0

■ 異なる医療機関(電子カルテシステム)の間で診療データを正しく交換するため

- 転院、研究などでの重複検査の軽減
- 患者負担の軽減
- システム間接続コストの軽減

MMLを使ったデータ交換



特定非営利活動法人
MedXML
コンソーシアム



G-XML

- 内容:地理(GIS)情報
 - PointからSemanticまで4種類
- 活動母体
 - (財)データベース振興センター
 - 経済産業省管轄
- JIS化
 - JIS X 7199 (2001.8.25)
- 主な採用例:
 - 岐阜県、三重県、豊中市 他



ContactXML

■ 内容:コンタクト情報

■ データ交換, B2C, B2B...

■ 活動母体

■ XMLコンソーシアム

■ ContactXML部会

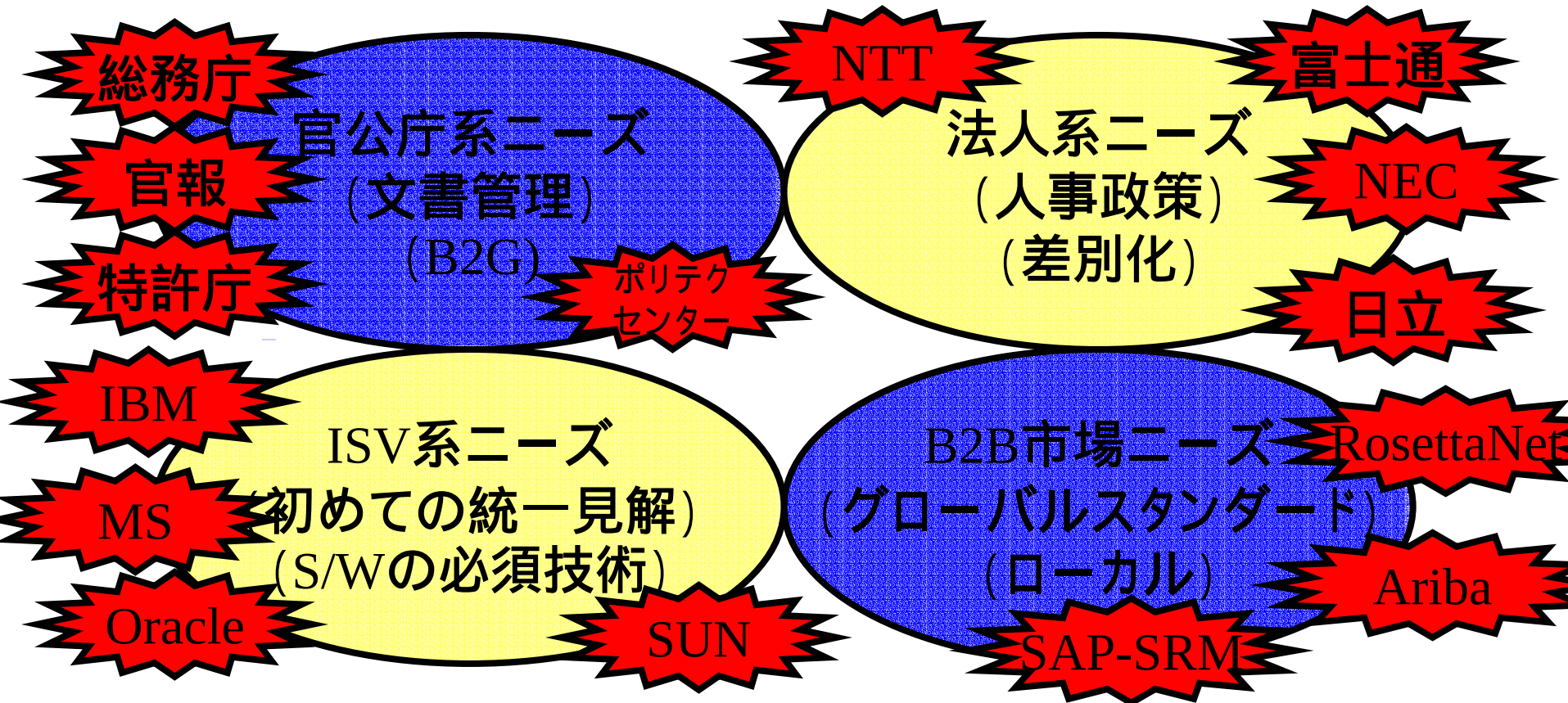
■ 採用例

■ 筆まめ、筆王、ケータイエディなど多数



XML技術者のニーズ

XML技術者ニーズの気運



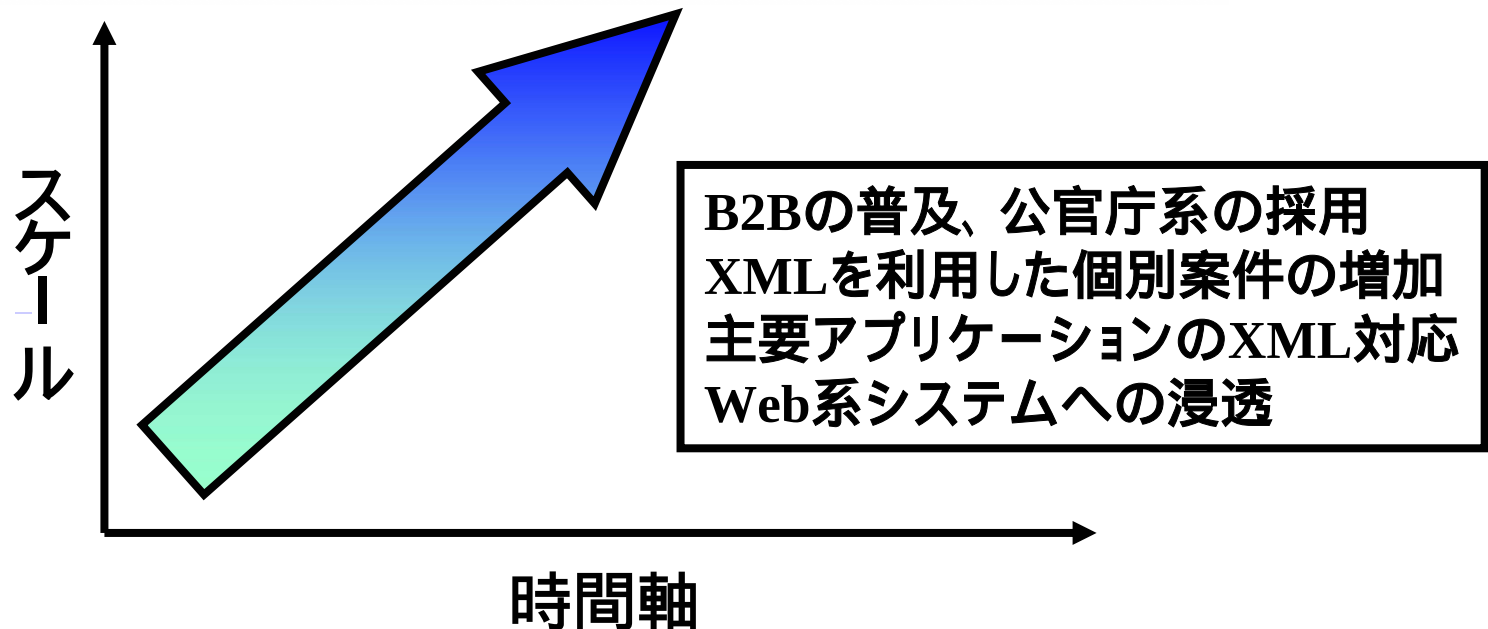
官公庁プロジェクト

- ・官報XML化プロジェクト(大蔵省1999)
- ・次期ペーパーレスシステム(特許庁2001)
- ・電子申告実験システム・申告データファイル仕様(国税庁2001)
- ・地理情報標準(国土交通省 国土地理院2001)
- ・デジタル写真管理情報基準(国土交通省)
- ・土木設計業務等の電子納品要領(案),工事完成図書の電子納品要領(案),CAD製図基準(案)(国土交通省2001)
- ・電子公文書文書型定義(総務庁2001)
- ・国土空間データ基盤整備等実施計画(経済産業省1999)
- ・JETRAS(輸出入・許可承認手続きの電子申請システム)(経済産業省2001)
- ・地球観測データDB(文部科学省2001)
- ・介護事業者連携のための介護データ交換規約(厚生労働省2001)

地方自治体 & 中央省庁などで研究会レベルも合わせると、
現在500以上のXMLプロジェクトが始動中です。

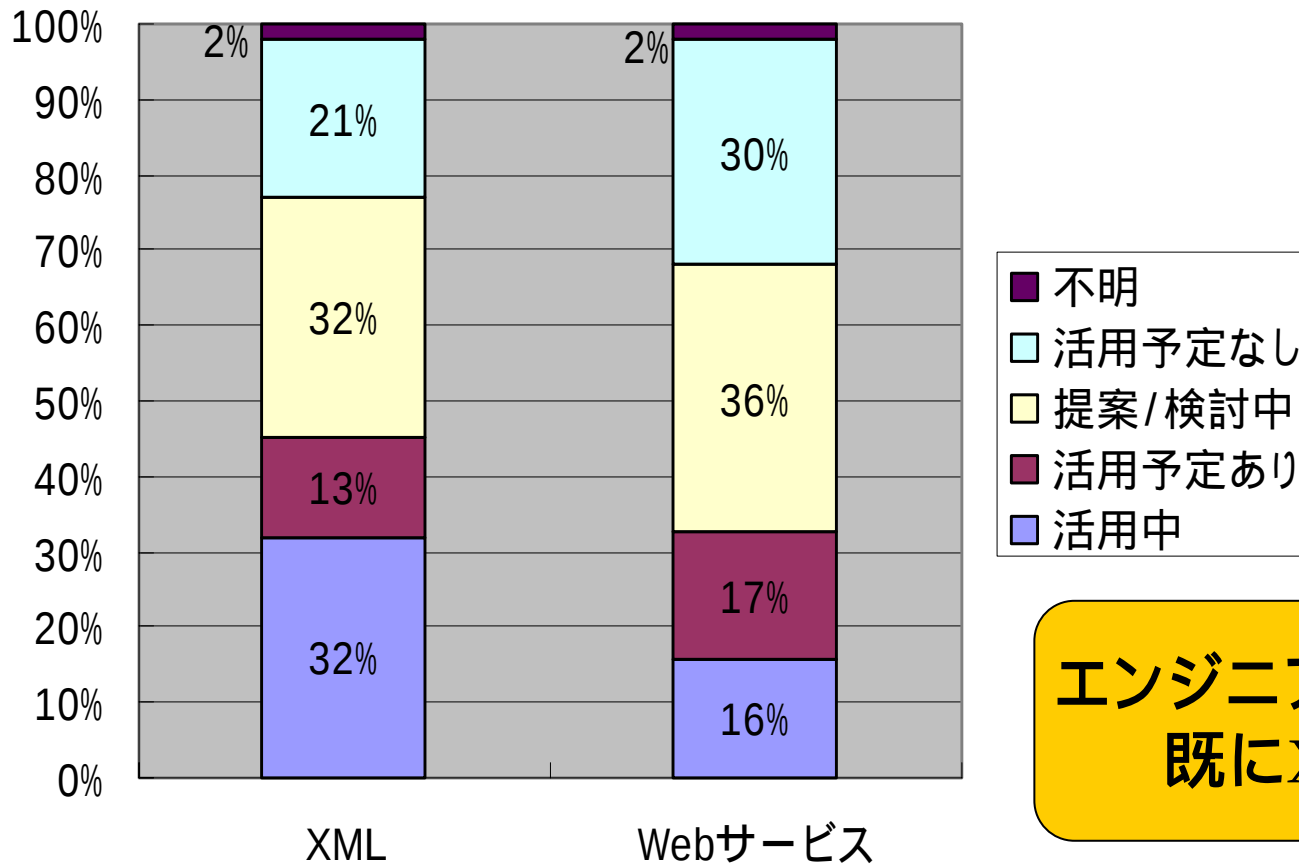
XML技術者のニーズ

■ XML技術者数の普及



Web系のライトなシステムからB2B等のヘビーなシステムまで
幅広く浸透

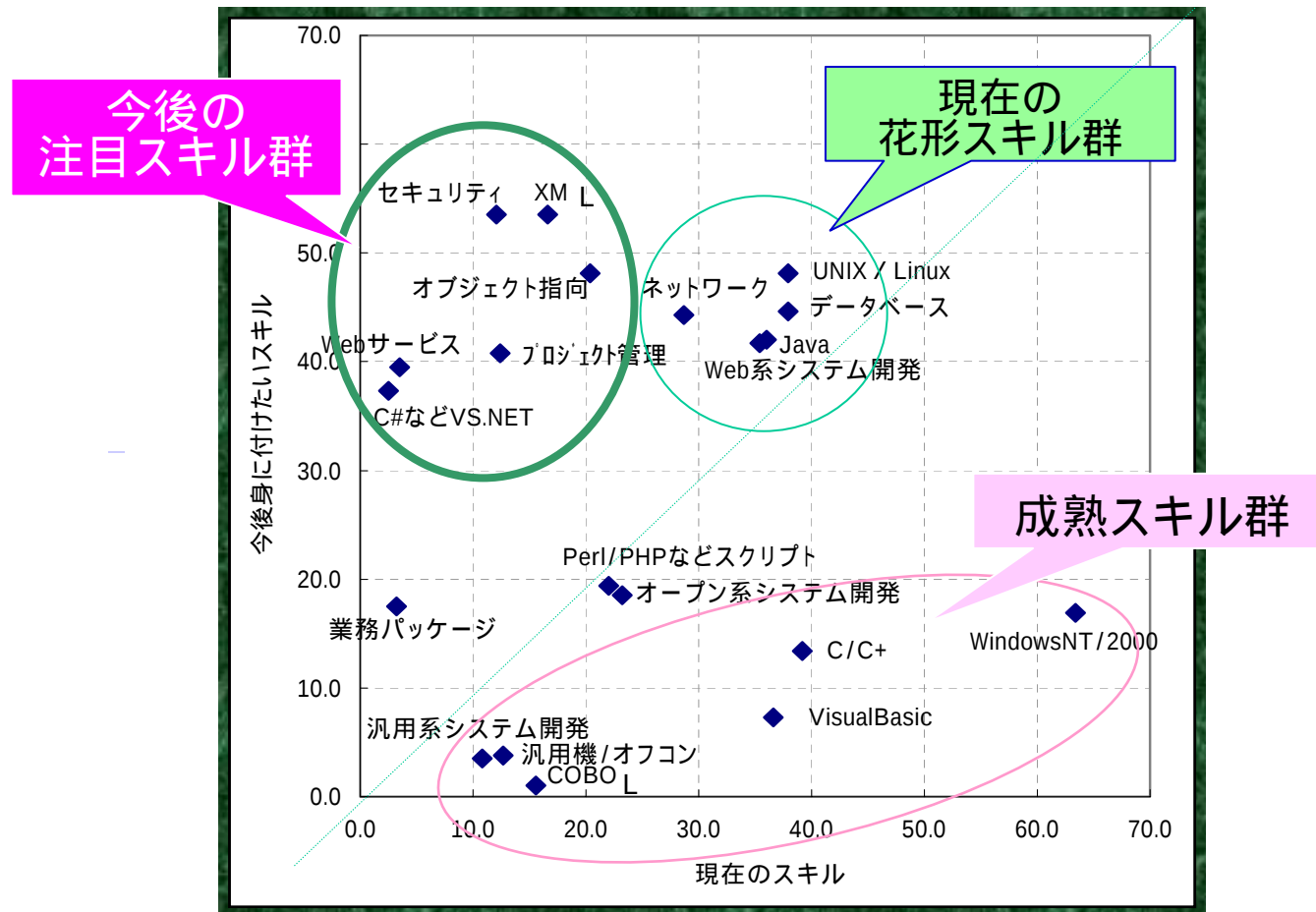
XML/Webサービスの活用状況



**エンジニアの3人に1人は
既にXMLを活用**

出典: @IT「第9回 XML&Web Services 読者調査」<http://www.atmarkit.co.jp/fxml/> 調査期間: 2003年5月 有効回答数: 410件

今後必要なスキル群

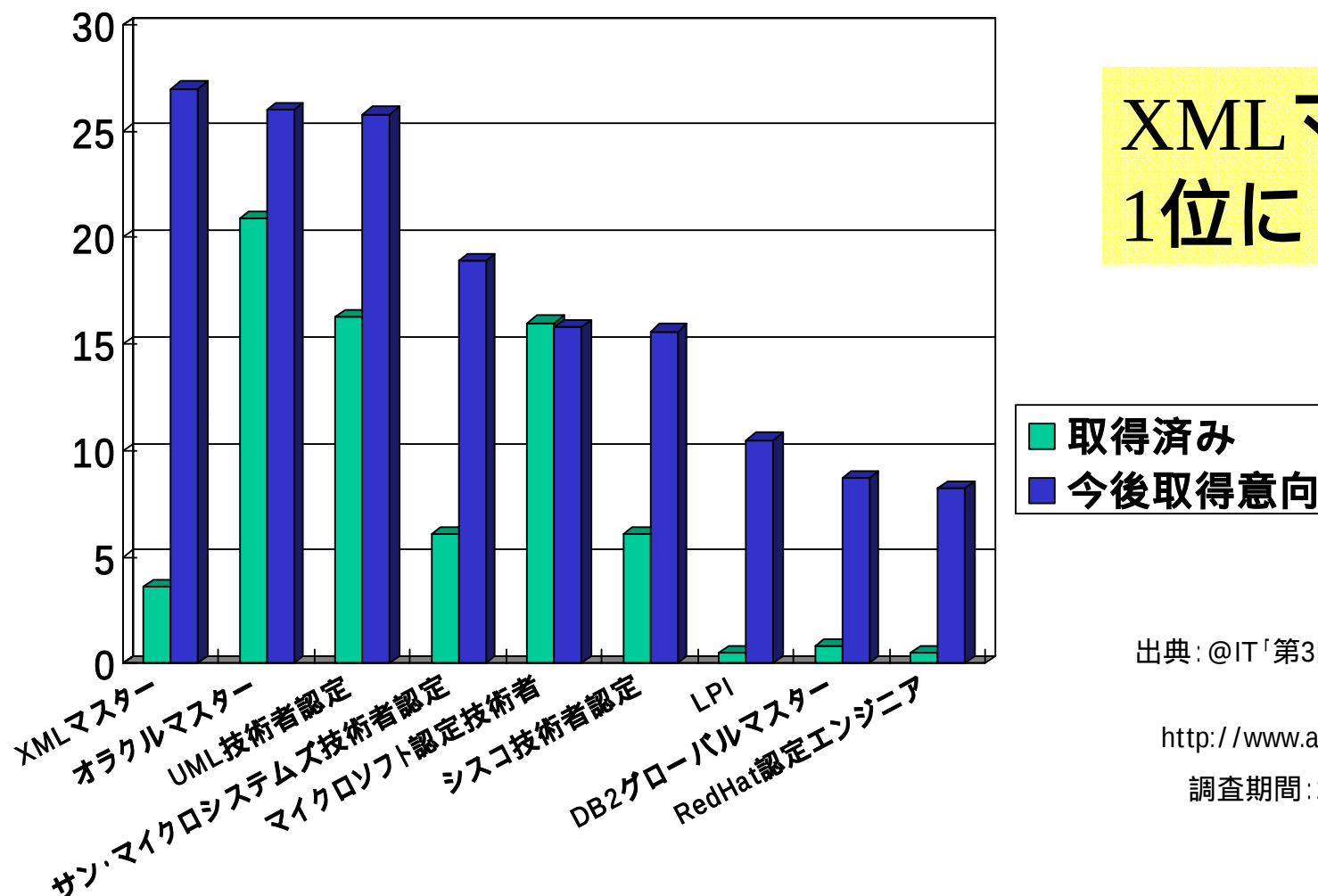


出典: @IT「第3回 Engineer Life 読者調査」<http://www.atmarkit.co.jp/fengineer/> 調査期間: 2002年3月 有効回答数: 314件

XML技術者育成推進委員会運営事務局(インフォテリア内)

mail:office@xmlmaster.org Tel:03-5718-1660 Fax:03-5718-1261

IT関連資格取得状況/取得意向



XMLマスター
1位に！！！！

出典：@IT「第3回 Engineer Life 読者調査」

<http://www.atmarkit.co.jp/fengineer/>

調査期間：2002年7月8日～8月7日

有効回答数：392件

XMLマスター取得状況

- 2003年3月末時点で4,000名を突破！
 - 「XMLマスター」発足から1年半
- 2003年10月までに8,000名の取得を見込む

XMLマスター認定制度

XML技術者育成推進委員会とは

- 設立 2001年9月
- 設立目的
 - ・XML(Extensible Markup Language) 技術の普及や技術者育成の推進を目的とした活動全般
 - ・XML技術者認定制度「XMLマスター」出題レベルの諮問
- 委員会会長 斎藤 信男
慶應義塾 常任理事
環境情報学部教授(兼任)
W3C Associate Chairperson
- ホームページ <http://www.xmlmaster.org/>
- 運営事務局 XML技術者育成推進委員会運営事務局



〒140-0014 東京都品川区大井1丁目47番1号 NTビル10階
メール: office@xmlmaster.org Tel.(03)5718-1660 Fax.(03)5718-1261

XML技術者育成推進委員会 理事会員



XMLコンソーシアム
(会員企業約211社)



外資系情報産業研究会
(会員企業32社)



インフォテリア株式会社



NEC



NECソフト株式会社



株式会社大塚商会

キヤノンソフトウェア株式
会社



グローバルナレッジ ネット
ワーク株式会社



シーアイエス株式会社



株式会社日立システムア
ンドサービス



株式会社日立製作所



株式会社P F U



富士通株式会社



XMLマスター認定の種類



XMLマスター：プロフェッショナル

XMLデータ処理を行うシステムの構築技術を認定

認定条件

- ・「XMLマスター：ベーシック」試験の合格
- ・「XMLマスター：プロフェッショナル」試験の合格



XMLマスター：ベーシック

XMLの基礎的な用語や文法などを問う基礎レベルの技術認定

認定条件

- ・「XMLマスター：ベーシック」試験の合格

XMLマスター：ベーシックとは

- 目的 : XMLの専門技術能力を正に評価できる技術者認定試験を提供することにより、認定者及び認定者の雇用者に対するビジネスチャンスの拡大を図ることを目的とする。
- 受験費用 : 15,000円
- 試験会場 : 全国80箇所のアール・プロメトリック社テストセンター
- 前提となる技術水準
 1. XMLおよびその関連の標準仕様について、その用語、概念を正しく理解していること。
 2. XMLによるデータの作成を標準仕様に基づき行うことができること。
 3. スクリプト言語のレベルでのプログラミング能力をもつこと。変数や関数の概念、オブジェクトの概念、アルゴリズムの理解能力を有すること。
- 試験概要
設問数 40問
時間 1時間
合格ライン 7割正解
出題形式 複数選択または単一選択
- 申し込み先
アール・プロメトリック株式会社
フリーダイヤル: 0120-387-737 <http://www.prometric-jp.com/>

詳しくは <http://www.xmlmaster.org/> まで

XMLマスター：ベーシック出題範囲(1)

■ 出題範囲

XML XMLの構造や作成方法	基礎知識 略語説明 標準仕様 標準化団体等についての知識
	文法 タグの記述方法 XMLを構成する各パート
	要素、属性、実体 種類 仕様 記述方法
	妥当な(valid)XMLと整形式(well-formed)XML 文法 差異
	特殊な文字 文字コード、エンコーディング XML文書の正規化
XSLT XSLTによる変換の仕組み XSLTスタイルシートの構造	基礎 概要 用語 文法
	各xsl:xxxxxx 要素 テンプレート 文字エンコーディング 実際の変換計算

XMLマスター:ベーシック出題範囲 (2)

■ 出題範囲

DTD 基本的なDTDの構造 DTDを利用したスキーマの構造	基礎 概要 用語 文法
	内容モデル 属性リスト宣言 実際の計算 エンティティ宣言 記法宣言
XML Schema スキーマを参照するXML文書の記述方法	基礎 スキーマ言語 概念
	データ型 記述方法 実際の計算
XPath XPathを使用したXML構造の表現	演算子 関数 実際の計算
DOMまたはNamespace DOM/Namespaceの概要	基礎 略語 概要 Namespaceの適用

詳しくは <http://www.xmlmaster.org/> まで

XMLマスター：プロフェッショナルとは

概要	: XMLデータ処理を行うシステムの構築に携わる技術を認定
受験資格	: XMLマスター：ベーシックに合格していること
認定内容	: 出題範囲における上位レベルとしてのXMLを習得している技術者
有効期間	: 無し
出題数	: 50問
試験時間	: 未定
合格ライン	: 80%
受験料金	: 15,000円(外税)
試験会場	: アール・プロメトリック株式会社
特典	: 認定証の授与 : ログ清刷リセットの授与



XMLマスター：プロフェッショナル出題範囲

- XML処理システムの構築概要
 - テキスト処理、DOM、SAX、XSLTの適用分野
 - XMLデータの伝送プロトコル
- XSLT
 - XSLTスタイルシートの処理手順
 - 各種XSLT命令
 - XPathの指定
 - XSLTスタイルシートの記述
- DOMプログラミング (Level2)
 - DOM Level2規格の目的と種類、特長
 - DOMの各インターフェース
 - DOMプログラミング
- SAXプログラミング (SAX2)
 - SAX規格の目的と種類、特長
 - SAXの各イベント
 - SAXの各インターフェース
 - SAXプログラミング
- Webサービス概要
 - Webサービスの概念
 - SOAPメッセージの構造と文法
 - WSDLの文法概要
 - UDDI概要
 - 関連するXMLデータの暗号化、電子署名



XMLマスター・プロフェッショナル を求める声

XMLコンソーシアム、外資系情報産業研究会、株式会社アットマーク・アイティ、株式会社イー・ブリッジ、インフォテリア株式会社、株式会社ウチダ人材開発センタ、NRIラーニングネットワーク、NEC、NECソフト株式会社、株式大塚商会、株式会社キャリアデザインセンター、グローバルナレッジネットワーク株式会社、サン・マイクロシステムズ株式会社、シーアイエス株式会社、株式会社システム・テクノロジー・アイ、スルガ銀行、株式会社セレブレイン、株式会社ダイジョブ・ドットコム、株式会社東芝OAコンサルタント、日本アイ・ビー・エム株式会社、日本オラクル株式会社、日本ヒューレット・パカード株式会社、株式会社日本ライセンスバンク株式会社パソナテック、株式会社PFU、株式会社日立システムアンドサービス、株式会社日立製作所、富士通株式会社、富士通オフィス機器株式会社、株式会社富士通ラーニングメディア、マイクロソフト株式会社、株式会社リクルート、、、etc..

各社のコメントについては、末尾の「XMLマスター・プロフェッショナルに対する市場の反応」をご覧ください。

XML技術者育成推進委員会運営事務局(インフォテリア内)

mail:office@xmlmaster.org Tel:03-5718-1660 Fax:03-5718-1261

The background of the slide is a vibrant, abstract image of a blue sky with bright, sun-like rays emanating from the top left corner, creating a sense of energy and movement.

各社の取り組み

日立システムアンドサービス

- 2003年3月末時点で取得者600名を突破し、SI事業の基盤を強化
- 2003年10月末までに1,000名の取得を目指す

出典: XMLマスターWebサイト

Voice
of
XMLマスター



株式会社日立システムアンドサービス
オープンソリューション事業部
プロフェッショナルサービス部
芳野 浩二さん

私がXMLマスターを受験しようと思ったのは、まず第1に「XMLを専門に取り扱っている部署にいるのだから、XMLだけは誰にも負けない」と胸をはって言えるくらいの技術力を身につけたかったからです。(メッセージ抜粋)

富士通

- プロジェクトA-XML中心にXML技術者を育成
- 「コンサルティングチーム」を設立し、官公庁案件、B2G、B2B案件への対応力を向上させ、競争力を強化する。

出典：XMLマスターWebサイト

Voice
of
XMLマスター



株式会社日立システムアンドサービス
オープンソリューション事業部
プロフェッショナルサービス部
芳野 浩二さん

富士通は、全社をあげてXMLおよびWebサービスに注力し、人材の育成にも取り組んでいます。特に私が所属するプロジェクトA-XMLではXML技術者の育成を目標に掲げ、XMLマスターの取得を積極的に推進しています。(メッセージ抜粋)

XML技術者育成推進委員会運営事務局(インフォテリア内)

mail:office@xmlmaster.org Tel:03-5718-1660 Fax:03-5718-1261

XMLマスター取得会社の公開について

■ XMLマスター取得者50名以上の会社を
2003年7月より公開予定です。

■ プレスリリースの発行

■ XMLマスターホームページ上に掲載

(注) 公開を許可いただいた会社のみとなります。

最後に・・・

- XMLは今後のITの基盤技術
 - 5年を経て世界的なデファクトスタンダードに
 - 数多くのソフトウェア、システムで採用
- 技術者は不足している
 - 教育制度、認定制度
- XMLをキャリア差別化にできるチャンス



XML技術者育成推進委員会運営事務局

〒140-0014 東京都品川区大井1丁目47番1号 NTビル10階

メール: office+xmlmaster.org Tel.(03)5718-1660 Fax.(03)5718-1261

< 付録 >

XMLマスター：プロフェッショナル に対するエンドースメント



XMLマスターに対するエンドースメント (1)

- **XMLコンソーシアム 会長 鶴保 征城 氏 (NTTソフトウェア 代表取締役社長)**

XMLコンソーシアムは、XMLマスターの上位認定である『XMLマスター：プロフェッショナル』の発表を歓迎し、普及を支援してまいります。XMLコンソーシアムでは、コンソーシアム内でのXML普及啓蒙活動に加えて、関連団体でのXML普及啓蒙にも力をいれており、その一環としてXMLマスターの普及を支援してまいりました。結果として、XMLマスターは、昨年10月の開始から着実に取得者を増やしており、また今回の上位レベル認定の開始により、不足が叫ばれているXML技術者の育成に大きく役立つものと期待しております。

- **外資系情報産業研究会(FIIF)会長 渡辺 邦明 氏 (キャリアクエストクラブ 代表取締役社長)**

FIIFは、以前より「塾i Change Nippon」や「実践大学」など、IT産業を中心とした人材育成に大きな力を注いで来ました。その一環として、XMLマスターも発起人の一団体として推進啓蒙してまいりましたが、ここにさらに上位のプロフェッショナル認定を発表できることを大変喜ばしく思います。FIIFでは、既にXMLマスター：ベーシックに関連して、「XML education」を開始しておりますが、XMLマスター：プロフェッショナルも取り入れ、取得者を増やし、日本の情報産業の進展に寄与したいと考えております。

- **株式会社 アットマーク・アイティ 代表取締役 藤村 厚夫 氏**

XMLマスター：プロフェッショナル認定制度の発足を歓迎します。株式会社アットマーク・アイティでは、ITエキスパートのためのWebサイト「@IT」を通じXML技術標準の普及を推進してきました。現在、@IT来訪者の関心は、基礎技術はもとより、Webサービスをはじめとする先端・応用技術へと、かつてない高まりを見せています。本制度が、わが国ITエキスパートの次なる“常識”となることを期待してやみません。

- **株式会社イー・ブリッジ 取締役コンサルティング本部長 岡部 恵造 氏**

株式会社イー・ブリッジでは、今回、XMLマスター認定制度に上位レベルの制度が発足したことを歓迎致します。我が国でも、インターネットを活用したビジネスの高度化の取り組みが各産業界で既に始まっており、その中で益々重要性が増しているXML技術を巧みに扱える優秀な技術者の育成が急務となっています。日本の産業界の再生にとっても、必ずやこの上位認定制度の取り組みが一助となるものと大いに期待しております。

XMLマスターに対するエンドースメント (2)

●インフォテリア株式会社 代表取締役社長 平野 洋一郎 氏

インフォテリアは、これまでXML技術の実ビジネスにおける普及に積極的に取り組んでまいりました。企業間取引や電子政府、そして数々のWebサービスといったXML技術をベースとした社会インフラの整備が進むに伴い、XMLに長けた技術者の充足と、レベルの向上が不可欠となっています。このような社会情勢のなか、XMLの基礎技術を幅広く認定する「XMLマスター：ベーシック」に加え、アプリケーション開発に必要な高度な技量を客観的に測るモノサシとして「XMLマスター：プロフェッショナル」が始まることは、単に個々のエンジニアや企業の役に立つだけでなく、社会ITインフラの向上に寄与できるものと期待しております。

●株式会社ウチダ人材開発センタ 代表取締役副社長 高橋 哲夫 氏

株式会社ウチダ人材開発センタは、IT技術のみならずヒューマンスキルまでの幅広い研修を取り揃え、技術者成長支援のためのベストプラクティスを提供しています。「XMLマスター：プロフェッショナル」の発足により、普及期に入ったXML技術の明確な指標ができ、XML技術の一層の浸透と技術水準の向上に大きく貢献することを期待いたします。

●NRIラーニングネットワーク株式会社 代表取締役社長 杉山 由高 氏

ベンダーニュートラルなXML技術を認定する「XMLマスター」の上位認定がいよいよスタートすることを歓迎しております。XMLは、すでにシステム構築において深く浸透し、利用が拡大しています。その中で、今後SI企業やエンジニアには、いかにXMLを使いこなせるかが課題となっていくと思われます。この「XMLマスター・プロフェッショナル」が実践的なXML技術を持つこと・活用できることの証として、広く認識されていくでしょう。この認定の普及とともに国内のエンジニア全体のスキルが底上げされることを期待しております。

●NEC エラーニング事業部長 奥 峰夫 氏

NECは、「XMLマスター：プロフェッショナル」資格の誕生を歓迎いたします。XMLの技量を測るものさしとして唯一のオープン資格である「XMLマスター」に、上位認定制度が加わるということは、eビジネスやeガバメント等のXMLが適用されるソリューションを提供する弊社ならびに関連協力会社のSEにとって、ユーザ企業様への技術力のアピールや、自己スキル向上の目標になるものとして大いに期待しております。

XMLマスターに対するエンドースメント(3)

- NECソフト株式会社 サービス事業部 事業部長 堀江 進 氏

XMLマスター上位資格の発足を歓迎します。これによりXMLの高度技術者に必要なスキルが明確になり、現場で活躍できる上位レベルのXML技術者の育成が加速して、事業拡大に繋がる事を期待しています。NECソフト株式会社では、IT企業を中心としたXML技術者のスキルアップや資格取得推進を弊社XML教育を通して支援していきます。

- 株式会社大塚商会 取締役 Web業推進部長 塩川 公男 氏

株式会社大塚商会では、XMLマスター：プロフェッショナル認定制度の発足がユーザ企業様のXML技術によるシステムの実装をより加速させるとして歓迎致します。XMLによるシステムは、ロゼッタネットやWebサービス等の普及によって既に多くの企業に導入されていますが、高度な実装技術の認定を目的としたこの制度はSierのSE技術の研鑽のみならずユーザ企業さまのシステム御担当者にも広くXMLをご理解いただく良き機会と考えます。

- 株式会社キャリアデザインセンター 「エンジニアtype」編集長 鈴木 義男 氏

B2Bや電子政府など、データ交換におけるXMLの重要性はますます高まっています。"わかる"だけではなく、"どのように"使うのかという段階に入ったといえるでしょう。実際に企業が求めるのは"使える"技術者。XMLマスター：プロフェッショナルは、技術レベルの目安だけではなく、キャリアアップにおいても大きな武器になるでしょう。

- グローバルナレッジネットワーク株式会社 代表取締役社長 尾藤 伸一 氏

グローバルナレッジネットワーク株式会社では、XMLマスターの上位資格「XMLマスター：プロフェッショナル」が発表されたことを歓迎いたします。今後、E-Businessをはじめミッションクリティカルな分野で、より実践的なXML技術がさらに求められ、高度なXMLスキルを必要とするエンジニアにとって本資格は明確な指標となるものと思います。弊社は、既にXMLマスター：ベーシックの育成を支援するための2種類のeLearning教材(eXPRESS TRAIN, eGES)を開発、9月より販売開始予定ですが、この上位資格においてもお客様のご要望にお応えしていきたいと考えております。

XMLマスターに対するエンドースメント(4)

●サン・マイクロシステムズ株式会社 iForce推進統括部 ディベロッパー・リレーションズ 部長 刀根 繁氏

サン・マイクロシステムズでは、業界標準のXML技術を認定する上位レベルの制度が発足したことを歓迎いたします。プログラムのポータビリティを実現するJavaテクノロジーとデータのポータビリティを実現するXMLをWebサービス構築における中核技術と位置付けております。XMLマスター：プロフェッショナルの開始によりWebサービス構築の現場で即戦力となる技術レベルを持ったエンジニアにとって明確な指標となるとともに、ユーザー企業に高度な技術提供をアピールできる制度として期待しています。

●シーアイエス株式会社 ナレッジアカデミー 統括 開沼 広明氏

シーアイエス株式会社では、XMLマスター：ベーシックより、「資格取得者」の支援にトレーニングベンダの立場で従事してまいりましたが、いよいよ本格的にシステム構築での必要なスキルを認定するための、上位資格ができたことを心から喜んでいます。XMLマスター：プロフェッショナルがXML技術のデファクトスタンダードとなっていくことを切望しながら更なる支援を続けてまいります。

●株式会社システム・テクノロジー・アイ 代表取締役社長 松岡 秀紀氏

株式会社システム・テクノロジー・アイは、XML技術の上位認定制度「XMLマスター：プロフェッショナル」が発足されたことを歓迎致します。この発足が、より高度で即戦力となる技術力の具体的指標となり、技術者の意欲を更に高め、同時に業界全体を新たに活性化する流れとなることを確信しております。弊社は、以前にも増して高度なスキル取得の支援を当社製品を提供し全面的に致します。

●スルガ銀行執行役員 ダイレクトバンク 支配人 森 延夫氏

ITエンジニアをサポートするスルガ銀行エスイーバンク支店では、ベンダーニュートラルのXML技術を認定する上位資格の制度が発足したことを歓迎します。当社では知識(レベル)・スキルはエンジニアの持つ"固有の資産"と考えておりますが、本制度のレベルは、エンジニアの資産として高く評価できるものと認識いたします。この先、XML技術が本制度により更なる業界標準として拡充できる事を期待します。

●株式会社セレブレイン 代表取締役社長 高橋 敦子氏

市場価値が急速に高まりつつあるXML技術者の育成は、多くの企業で課題となっています。採用・人事戦略および人材育成等に関するコンサルティングを行っている当社では、このたびの上位レベルの認定制度開始により、さらに高度な技術を持った人材の育成が加速されるものと期待しています。

XMLマスターに対するエンドースメント(5)

- **株式会社東芝OAコンサルタント 代表取締役社長 宮西 亮 氏**

株式会社東芝OAコンサルタントでは、XMLマスター：プロフェッショナルの開始を歓迎いたします。XML技術者の育成は急務かつ必須であることを、技術者育成の場においても感じています。XMLマスター：プロフェッショナルの開始により、明確な技術力の指標となり、エンジニアにとっても企業にとっても有利な展開になると期待しています。

- **日本アイ・ビー・エム株式会社 ソフトウェア事業部 エマージング・テクノロジー部長 田原 春美 氏**

XMLマスター：プロフェッショナルの発表を心から歓迎いたします。日本アイ・ビー・エムは、XML技術の研究・開発を東京基礎研究所を中心に早くから取り組み、また、ソフトウェアやサービスについてもXMLを積極的に取り込み、先進的、且つ価値の高いソリューションの提供に努めてまいりました。XMLマスタープロフェッショナルの開始により、社会へのXML技術の理解と導入が加速され、私どものソリューションもより多くのお客様に貢献できるようになることを期待しております。

- **日本オラクル株式会社 執行役員 エデュケーションサービス本部長 武井 直 氏**

日本オラクルは、XML というIT標準技術の上位認定制度発足を歓迎いたします。オラクル製品はこれまで、XMLを初めとした業界標準のテクノロジーにいち早く対応してきました。「XMLマスター：プロフェッショナル」の開始により、実際のシステム構築に求められる、実用的かつ高度の知識を有するXML技術者が拡大していくものと期待しております。

- **日本ヒューレット・パカード株式会社 hp教育サービス事業本部 本部長 長坂 武夫**

日本ヒューレット・パカード株式会社(以下、日本HP)は、XMLマスターの上位資格である『XMLマスター：プロフェッショナル』制度の発足を心より歓迎いたします。この上位資格により、より実践的なエンジニアのスキルと価値を明確に認定することができ、日本のIT普及の加速と関連ビジネスの推進力となるでしょう。hp教育サービスでは、一連のXML教育コースを提供することで『XMLマスター：プロフェッショナル』認定技術者の育成を支援いたします。

- **株式会社日本ライセンスバンク代表取締役 松田 直之 氏**

(株)日本ライセンスバンクでは次世代標準言語として成長著しいXML技術を認定する上位認定制度が発足したことを歓迎いたします。XMLの企業システムでの活用能力を証明する上で、客観的な指標として普及していくものと考えます。弊社はリナックスアカデミーを通じ、XML技術者の育成に取り組んでおりますが、これを機にXML教育の更なる普及を期待しています。

XMLマスターに対するエンドースメント (6)

●株式会社パソナテック 代表取締役 森本 宏一 氏

株式会社パソナテックは、Webサービスの普及に合わせて需要の高まっておりますXMLエンジニアの創出・育成の観点より、XMLマスター：プロフェッショナル制度の開始を心より歓迎いたします。同制度の発足は、即戦力としてのエンジニアの技術レベルの認定・向上のみならず、エンジニアの裾野を広げ、深刻な技術者不足へのソリューションとなりますことと信じております。

●株式会社PFU 専務取締役 岡松 正憲 氏

株式会社PFUでは、XMLをキーテクノロジーに企業内外のシステム連携を実現する「情報統合化ソリューション」をはじめ、XMLを活用したソリューションを提案し、各種システムに幅広く対応しています。弊社では、90名以上の技術者がXMLマスター：ベーシック資格を取得済みです。XMLマスター：プロフェッショナル資格は、高度なXML技術を持った技術者の指標となり、弊社のXML技術力をアピールできる資格として期待しています。

●株式会社 日立システムアンドサービス 事業企画部 部長 石井 清 氏

日立システムは、今後のSI事業の鍵となる資格であるXMLマスターの取得に関して、全社を挙げて取り組んでおります。実用システムでのXMLの採用はここ1年で本格化しつつあり、更に最近ではWebサービスを利用した新たなシステム形態が注目されるようになってきております。XMLマスター：プロフェッショナルは、XMLデータ処理のプログラミングをはじめXML利用の高度な技術レベルを評価する資格であり、XMLの普及促進、システムの高度化／安定化に貢献していくものと期待しております。

●株式会社日立製作所 情報・通信グループ 生産技術本部 本部長 原田 晃 氏

XMLは、B2B、Webサービス、官公庁等のEC分野のみならず、全てのデジタルデータの記述方法としても大きなインパクトを与える重要な要素技術として定着しつつあります。当社でもこうしたニーズに応えるXML応用システムの構築やソリューションを提供しており、XML技術者の育成を推進しております。今回のXMLマスター：プロフェッショナルが技術者にとっても最適な評価基準になるものと期待しています。

●富士通株式会社 ソフトウェア事業本部 プロジェクトA-XMLプロジェクト長 弘末清悟 氏

富士通株式会社は、XMLをインターネットの新たな展開のためのキーテクノロジーとして、平成13年4月にプロジェクトA - XMLを発足し、XMLの研究・開発・適用を推進しております。今回、XML技術者の上位認定制度「XMLマスター：プロフェッショナル」のスタートにより、システム技術者へのXML技術の普及とレベルの向上、ひいてはお客様のビジネスの発展に貢献するものと期待しております。

XMLマスターに対するエンドースメント(7)

●富士通オフィス機器株式会社 代表取締役社長 松尾 好洋 氏

富士通オフィス機器株式会社では、XML技術者認定制度XMLマスターの上位レベルの制度が発足したことを歓迎いたします。XMLマスター:プロフェッショナルは、e-Japanの実現、電子商取引の促進等XMLが利用される様々な社会的インフラ構築のためにエンジニアが目標とすべき認定制度であり、弊社としても、認定取得を目指すエンジニアの育成に少しでもお役に立てればと考えております。

●株式会社富士通ラーニングメディア 取締役 研修事業本部長 今井 恒雄 氏

富士通ラーニングメディアは、XMLマスター:プロフェッショナルの認定制度が新設されることにより、XMLベースのシステム構築を支える技術者の育成に大きく貢献するものと期待しております。当社は富士通と協調し、実践的なXML構築技術普及のため、システム構築に関わる技術者の育成に取り組んでおります。既に、プロフェッショナル資格に関連した10コース以上の集合研修やeラーニングコースを提供しており、今後もXML技術者育成の推進に貢献していく所存でございます。

●マイクロソフト株式会社 執行役員 三ヶ野原 敏郎 氏

マイクロソフトはXMLを技術的基盤としてインターネットをもっと人々に役立てる仕組みにできると考え、早期からXMLを最大の投資分野として研究を進めております。すでにMicrosoft .NET(マイクロソフトドットネット)として製品への実装面で成果を積み上げつつありますが、同時にMicrosoft .NETを構成するコアの技術であるXML、あるいはWebサービス分野での高水準な技術者の育成についても早期に取り組むべき課題であると考えています。今回の認定制度拡充により、技術者の習得度を客観的に判断できる基準を設けることでソフトウェア技術者の育成が進み、XMLあるいはWebサービスが実際に実務面で利用されることに弾みがつくものと期待しています。

●株式会社リクルート「TECH B-ing」編集長 藤井 薫 氏

TECH B-ing編集部は、業界標準のXML技術を認定する上位レベルの制度が発足したことを歓迎いたします。ますます複雑化・変容化するシステム構築の現場において、継続的に戦力となる要素は、1)「社内価値を越えた広範な知識」、2)「実践に基づいた経験」、3)「最新スキル取得への向上意欲」の3要素といわれます。XMLマスター:プロフェッショナルが、継続的に活躍できるエンジニアの知識・スキル・意欲(=市場価値)を証明する指標の一つとして、認知・普及することを期待いたします。